

サンモール一番町商店街

「拙者の今年の担当は、サンモール一番町商店街でございます。今年の冬はいつになく雪が多いですが、ここは屋根(アーケード)があるので安心して歩けますねえ」
 「ちなみに、今の屋根は昭和61年に設置され、高さは13メートルあるそうでございます。これは設置された当時、日本で最も高いものだったらしいですよ。35年もの間、この街を見つめてきたんですねえ……」
 「さて、ここでの謎の手掛かりは、あの商業施設の外観らしいです!窓の配置がなんと独特です。これ自体が謎のようじゃ……」

文化横丁

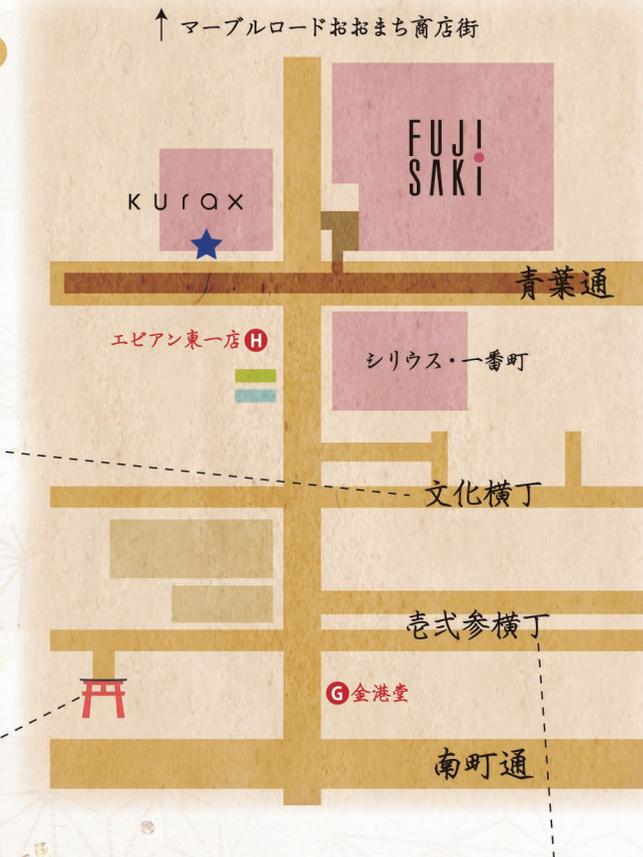


「ブンヨコ」の愛称で親しまれる横丁は、大正13年に誕生した「東百軒店街」から始まり、翌年に活動写真館「文化キネマ」が誕生したことをきっかけに今の名が付けられました。約50軒の飲食店が集まり、知る人ぞ知る店が名を連ねています。

野中神社



サンモール一番町商店街を歩くと一か所だけ大きな鳥居の様な赤い柱があり、野中神社への目印となっています。伊達政宗公が城下町を建設するときに町割りを使用した縄を地中に埋めたことから「縁結び」と「商売繁盛」にご利益がある神社です。毎月11日は縁結日と呼ばれる記念日で、社務所では婦人部による絵馬や御守り販売が行われています。境内にある絵馬掛所には縁結びの願いが書かれた沢山の絵馬が掛けられています。



壺式参(いろは)横丁



正式名称は「中央市場商業協同組合」といいます。全長約120mある細長い2本の横丁には老舗から新規店舗まで飲食店を中心に100以上の店舗が並んでいます。昭和20年の仙台空襲で、焼け野原だったこの地でゴザを並べて物売っていた闇市が発祥で、通り沿いには昭和レトロな建物や看板が目に入りタイムスリップした気分になるかもしれません。写真映えること間違いなしのレトロな横丁です。



支倉常長
 慶長遣欧使節

仙台初売り



江戸時代から続く新年の事はじめとして歴史は古く、毎年1月2日に豪華な景品や特典を付けた福袋や茶箱などの販売や、和太鼓の演奏、甘酒のお振舞いなどで新年の縁起を担ぎ、大勢の買い物客をもてなす仙台伝統行事です。令和3年は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、各店舗では福袋の事前予約やおもてなしの中止など規模縮小となりましたが、仙台初売りを絶やさすことはなく開催することができました。

仙台七夕



毎年8月6日から8日の3日間開催している仙台を代表する夏祭りです。職人が繊細な技で手作業で工程を積み重ね、10mを超える豪華絢爛な仙台伝統の七夕飾りが吊るされます。七つの飾りには無病息災、商売繁盛、健康長寿など一つ一つに願いが込められています。令和2年は残念ながら例年通りの開催はできませんでしたが、仙台商人達の想いで次年度の祭り開催に向けた機運醸成を図れるようにと、小さな七夕飾りを商店街や店舗の軒先などに飾りました。

住所で異なる「町」と「丁」の違い

藩政時代、町の名前は侍の住む屋敷で構成される「町」と、職人や商人などで構成される「町」に区別されていました。現在の住所を見ると、その当時の名残を感じることができます。

あおぼどおり めん しょうぎょうせつ たてもの み あ
 青葉通に面した商業施設の建物を見上げよ。
 たてもの まど い か ゑ す まど みくら まどわく かたち ちが ばしょ も じょ う え
 建物の窓と以下の図の窓を見比べ、窓枠の形が違う場所の文字を上から読め。

か	ふ	う	か	ち
す	わ	ず	な	し
ゆ		つ	す	ま
き	す		い	は
め				

こたえ